



[HOME](#) [仏教](#) [仏像](#) [名所旧跡](#) [スナップ](#) [グロマコン](#) [経営コンサルタント](#)

【カシャリ！ ひとり旅】

東京北区石神井川沿いのウォーキング 1

音無親水公園と石神井川

JTBパブリッシング社の「東京自然を楽しむウォーキング」を参照して、2021年3月に、北区のJR王子駅から、板橋区の都営三田線・板橋区役所前駅までの約6kmを、桜をモチーフに楽しみました。

東京都北区

<http://www.city.kita.tokyo.jp/>

区のサイトによりますと北区は、下記のように紹介されています。

北区は、江戸時代から飛鳥山の桜、石神井川の滝や紅葉といった四季の変化を楽しむことができる行楽地として知られていました。現在も、これらの自然をはじめ、荒川や石神井川などの4つの河川に恵まれた緑あふれるうおいのまちです。

JRや地下鉄、都電などが区内を走り、商店街がにぎわう便利で活気のあるまちでもあります。

令和6年には、近代日本経済の礎を築いた渋沢栄一が新一万円札の顔として登場。渋沢は、61歳から亡くなる91歳までの30年間、飛鳥山の一角を本邸として過ごし、その邸宅の一部も残り、また渋沢資料館として一般公開もされています。

北区基本構想では、将来像として、「ともに作り未来につなぐときめきのまち ～ 人と水とみどりの美しいふるさと北区」を掲げ、その実現に向けて努力しています。



面積	20.61km ²
総人口	353,431人（推計人口、2021年2月1日）
人口密度	17,149人/km ²
区の木	サクラ（1972年12月25日制定）
区の花	ツツジ（1972年12月25日制定）

■ 東京都北区王子

王子（おうじ）は、東京都北区のほぼ中央部に位置し、東北新幹線、京浜東北線などが南北に貫通し、それに並行するように国道122号（北本通り）が走っています。その通り沿いには、王子随一の繁華街があります。

昭和40年代までは、渋沢栄一で知られる旧王子製紙（過度経済力集中排除法による会社分割前の王子製紙であり現在の同名企業とは異なる）の工場や社宅が多く立ち並んでいました。

徳川8代将軍吉宗の時代から桜の名所として知られる王子ですが、日本で最初に制定された公園として知られる飛鳥山公園があります。見落とされがちなのが、桜並木の美しい石神井川を遡り旧中山道の板橋宿まで続く遊歩道です。

■ 王子稲荷神社

公式サイト

<https://www.city.kita.tokyo.jp/hakubutsukan/rekishi/fureru/bunkazai/jujo/ojiinari.html>

JR王子駅北口の改札を左手に出て、線路沿いの道を北方向（埼玉県大宮方面）に進んでゆきます。枝道もありますが、ほぼ北方向に直進しますと、左手に、いなり幼稚園があります。その後方に王子稲荷神社の杜が広がっています。

稲荷神社に行くには、幼稚園の手前角を左に急坂を登ってゆきます。坂の上から、自転車に乗った親子がすごいスピードで降りてきました。

地図： JTBパブリッシング社「東京・自然を楽しむウォーキング」



■ 王子稻荷神社本殿



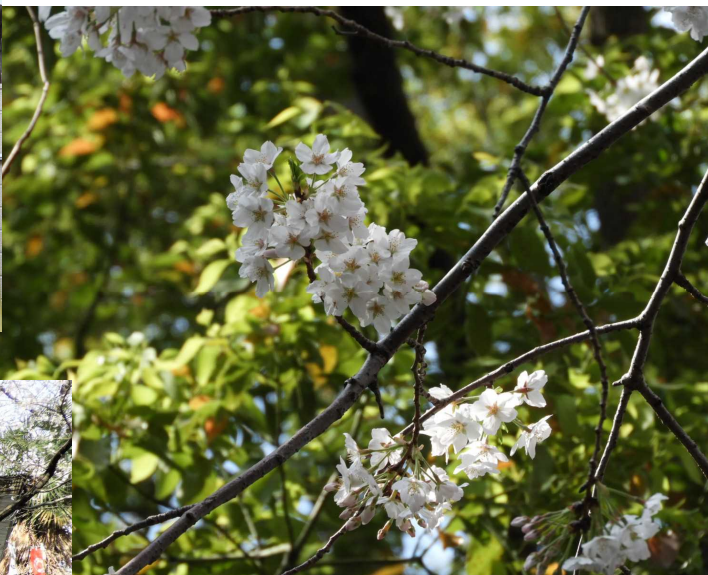
50mほど昇ると右手に稲荷神社の鳥居が見えます。こちらは、社殿の横から入る入口です。

幼稚園がしまっていると正面の門から入ることができます。

ボランティアによるツアーがあるようで、数人の人がたむろしていました。



1000年の歴史ある古社で、関東稲荷神社の格式を持ち、徳川家も信仰するほどで、関東地方の神社の総元締めといえます。



境内に入ると右手に資料館があります。

幼稚園が開園中は、園児のために使われますので、残念ながら拝観することはできませんでした。





鳥居をくぐった正面に拝殿が見えます。

社殿は、極彩色で装飾され、細かの細工も見事です。



極彩色の拝殿

稲荷社を示す扁額と龍の彫り物

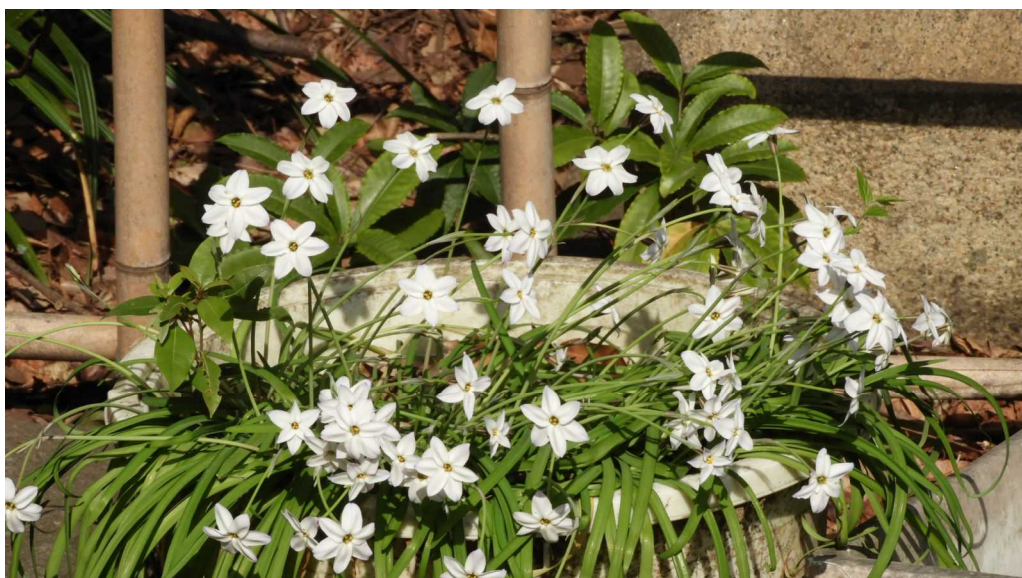




桜が、社殿の極彩色に負けじと枝を貼り出していました。

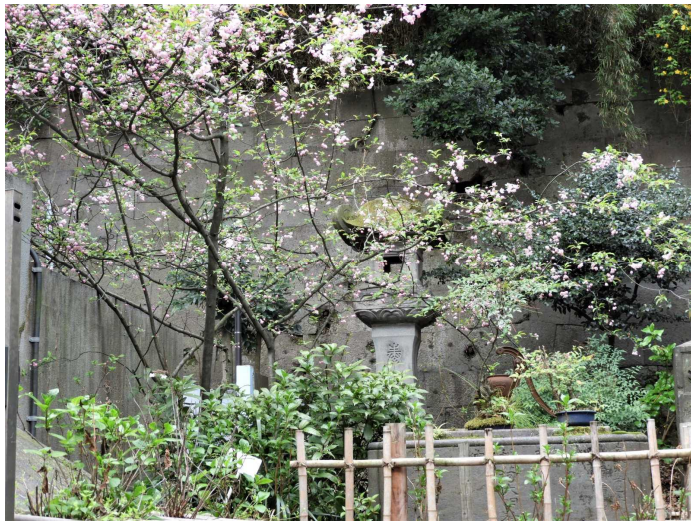
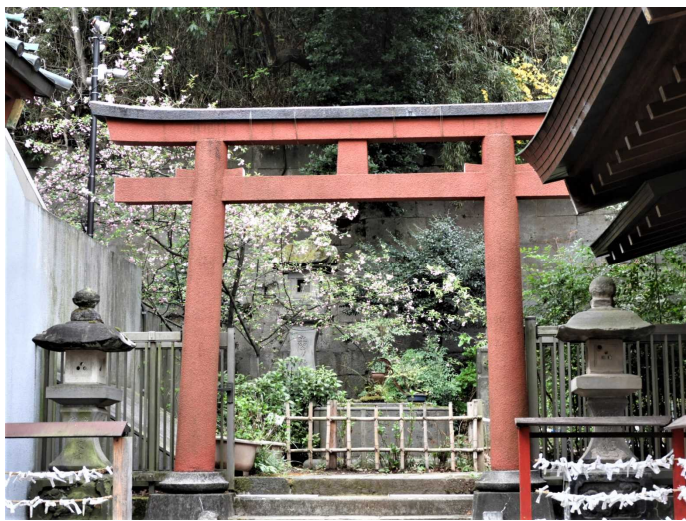


拝殿の正面には鳥居があります。園児のいない時間には、正門から階段を登ってここからあがってきます。階段下には、正門が見えます。



社殿を詣でて右手にゆき
ますと社務所があります。
そのまえに、可愛い花が植
えられていました。

■ 王子稲荷神社奥庭・本宮へ



社務所の右前にある朱色の鳥居をくぐりますと、そこには燈籠など石細工と共に古井戸があります。

左手は本殿で、その横には、はなももが桜に負けまいと、まだ頑張っていました。



水の豊かな北区にある神社らしい



◇ 本殿

拝殿の奥には本殿があります。

本殿は、奥庭に入らないと見えません。

本殿の横には、今を盛りに咲き誇るはなももが井戸の横に立っていました。





本殿を背にして奥庭を進みますと、本宮（ほんぐう）があります。

「本宮」（ほんぐう、もとみや）とは

祭神の鎮座している社のこと

別宮、奥宮に対して主神が鎮まっている根本の社



本宮の右脇にあります鳥居群をくぐると、奥宮や「御石様」があります。





◇ お石様

御石様は願い事を念じ、持ち上げたときに軽ければ叶い、重ければさらなる努力が必要と教えてくれます。



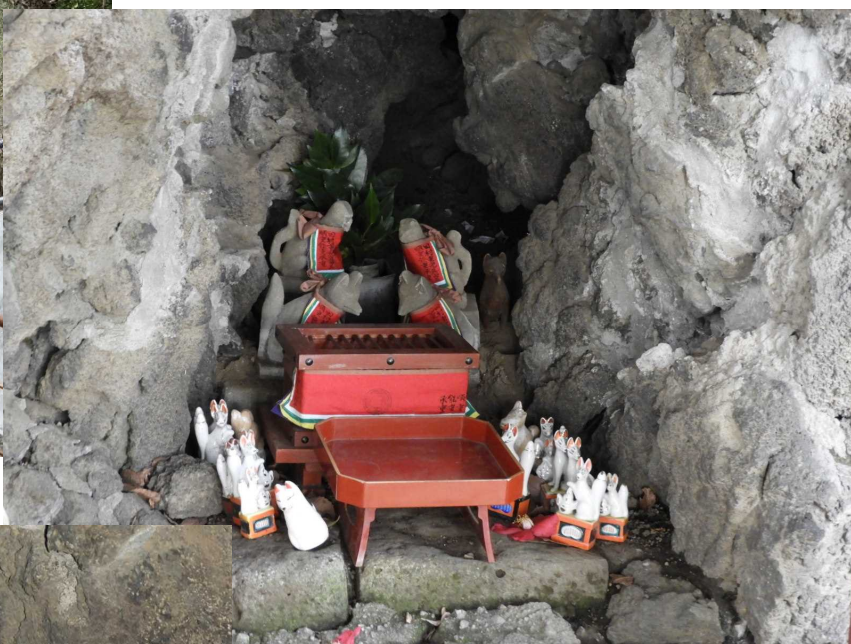
昔このあたりに狐が住んでいたそうです。

おそらく、それが稲荷神社として、この地に建てられた理由のひとつではないでしょうか。

稲荷神社・稲荷社

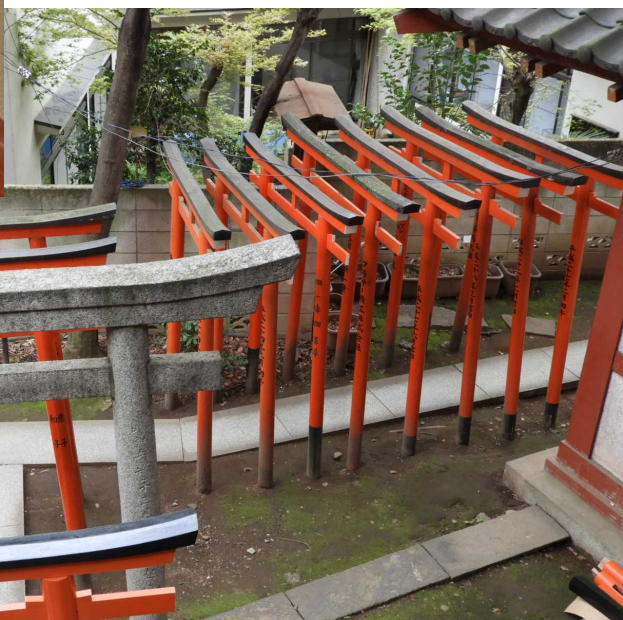
稲荷神を祀る神社おことで、京都市伏見区深草にある伏見稲荷大社が神道上の稲荷神社の総本宮となっています。

稲荷神社には、守護獣として狐形の像が置かれています。



この辺りに棲みついていたキツネの巣である「狐穴」が、この神社の一番奥の高い所に祀られています。

フラッシュを焚かないと奥まで撮影できないほど、ちょっとした奥行きがあります。

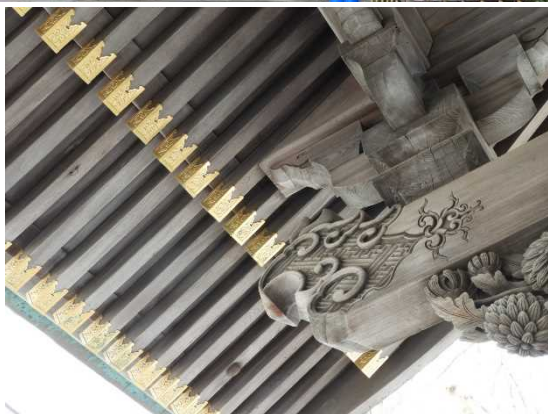


「狐穴」の祠の前から下を見下ろしますと、さきほどくぐってきた鳥居群が並んでいます。

もちろん、伏見稲荷の鳥居などとは比べものにならない数でしかありませんが、このようなモノが東京23区内にあるのです。

王子稻荷神社の一番奥まで参拝したら、元来た道を戻ります。拝殿の前と鳥居を出たところで一礼してから、元来た急坂をくだります。

下りきったところで、幼稚園のある先を左に折れますと、拝殿前の鳥居から見落とすと見えました正面の門の所に出ます。



国認定重要美術品 昭和九年九月認定

額面著色鬼女図

岸町一―二―二六 王子稲荷神社所有

日本画家・蒔絵師として著名な柴田是真作の額面著色鬼女図は、天保十一年（一八四〇）二月初午に、江戸住吉の砂糖商人の同業組合である明徳講が、商権の拡大を願って奉納した絵馬です。

絵馬は、凡そ縦一九〇cm、横二四五cmの大きさで、画面いっぱいには、酒吞童子の家来茨木童子が化けた鬼女の姿が描かれています。

源頼光の家臣渡辺綱は、女に化けた茨木童子の退治に出かけ、その女の片腕を切り取ってしまいました。六日後のこと、鬼女

は、切り取られた腕を取り返すべく、渡辺綱の伯母に化けて、綱の屋敷を訪れます。鬼女は、腕を取り返すや否や、伯母から変じて目を怒らせ、口を開き、疾風のごとく空中に飛び去りました。

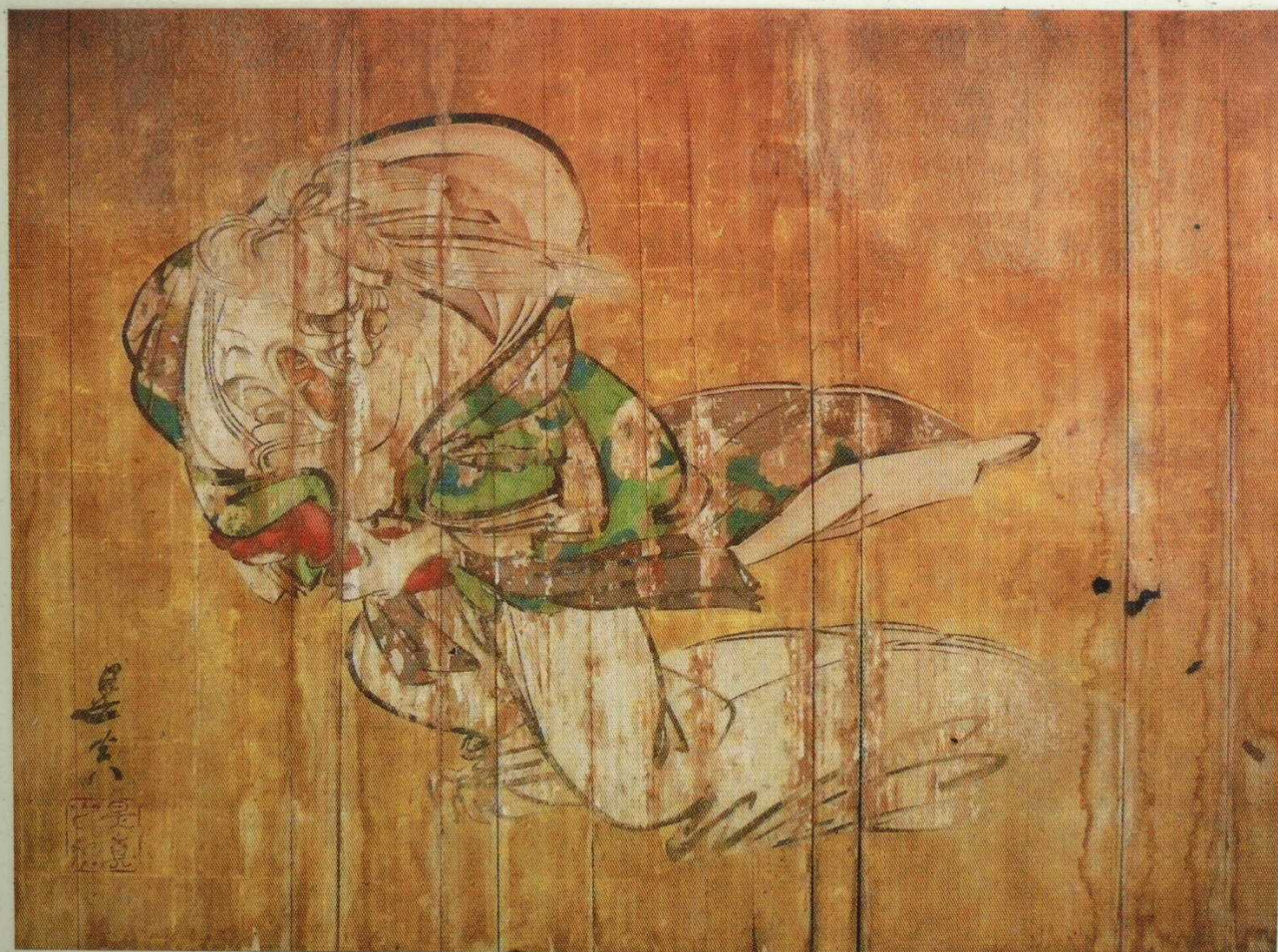
この画の麗美な衣装とグロテスクな面貌との対照が場面の凄みを高め、人々を慄然とさせ、是真の名を世に知らしめる契機となったと伝えられます。



※毎年2月の初午・二ノ午のみ公開しています

平成二十二年十一月

東京都北区教育委員会



※毎年2月の初午・二ノ午のみ公開しています

